



年間政策実施成果要点

高雄園區日進月歩

高雄園區は、2005年営業総額が16億円で、2004年比120%の成長率である。2005年の就業者数は1,620人で、これは2004年比305%の成長である。2006年の予想は、営業総額と就業者数において2005年比で倍の成長が見込まれる。

オプトエレクトロニクス産業では、奇美電子(CMO)、展茂光電(Allied Material Technology)、瑞儀光電(Radiant Opto-Electronics)、鑫科材料(ThinTech Materials Technology)や東台精機(Tong-Tai Machine & Tool)等、オプトエレクトロニクス部品や原材料メーカーの園區駐在が見られ、通信情報産業では、電信技術センターが2003年10月に設置され、2005年12月には「財団法人全国認証協会(Taiwan Accreditation Foundation, TAF)」の公式なISO認証を取得したことで、電信園區建設に向け一歩前進したと言えるであろう。バイオテクノロジー産業においては、14ヘクタールをバイオ医療技術器材産業專業地区に制定し、併せて2005年財団法人金属工業研究發展センターに特区成立と入園メーカー招致企画を委託することで、積極的なバイオ医療器材の産業集落の形成を目指す。

園区内のインフラ整備においては、高雄園區と中山高速道路との直接連結工事が2005年5月に着工されており、2007年11月完成を予定している。これにより園区内従業員の通勤時間の10～15分間の短縮が期待できる。また、第一期標準工場や第一期球場建設は既に完成しており、2005年10月には新たに3つの銀行の園内駐在が決定しており、第一期宿舍も2006年6月完成する予定である。初期の運営・生活機能施設は着実に整備が進んでいる。



本管理局とバイオ医療技術器材メーカーとの覚書(MOU)調印式(10月3日)

高雄バイオテクノロジー園區企画

国内のバイオテクノロジー研究の加速的な引き上げと南部・北部両地域間のバイオテクノロジー産業発展の格差を埋めるために、行政院において、2005年1月20日に基本的な「高雄バイオテクノロジー園區計画設計図」企画が立案された。企画内容の詳細は2005年12月30日行政院国家科学委員会(国科会)に報告書として提出され、行政院による審査認定中である。予定園區面積は約8.5ヘクタール、高付加価値と専売特許権の取得が可能な新薬の研究開発を目標とし、園區の研究開発管理センターの他に、cGMP工場、バイオテクノロジー研究センターと関連公共施設の設置が計画されている。園区内駐在メーカーは高雄バイオテクノロジー園區において研究開発や試作品生産ができ、その後台南園區と高雄園區のバイオ医療技術器材産業專業地区に移って量産することができる。本園區と屏東農業バイオテクノロジー園區の資源と併せることにより、南台湾バイオテクノロジー産業の一大産業集落クラスターが形成される。